

防災民話の外国語版の作成とその過程

★子どもたち自身で調べ、話をまとめ、絵本のイメージを付ける。この自分の体験してきたものを形に残す作業は、子どもたちに自己発信と自己実現の機会を授ける。

★この過程で生み出された作品は貧困や被災などの現実を外部に発信する「とび道具」となる。例えば弊法人での活動の一環で作成した防災民話は、災害という人類共通の脅威に対して教訓を残す。またこれらの発信物を周囲の大人達がスキルを出し合ってアップデートすることで、そこに住む子どもたちから世界中へ共有されることも可能である。

★弊法人では子どもたちが作成した防災民話を外国語へ翻訳した(英語、オランダ語、中国語)。このことで海外で災害の脅威に晒されている子どもや大人からの反応がある。この反応こそが、この民話を作成している子どもたちへ、減災への願いは自分たちを取り巻く地域だけではなく世界中で求められている事を認識する。つまりグローバルな課題としての減災のあり方を民話の翻訳というツールを通じて自身の問題と結び付ける事が出来る。